

★ヤゴの観察と飼育★

■ヤゴってどんな虫？

ヤゴとはトンボの幼虫のことです。種類によって形に違いがあり、腹部が丸くて大きいものや、体が細くなっているものなどさまざまです。

■ヤゴを観察するにはどうしたらいいの？

ヤゴは池・沼・小川などの水底や、水草につかまって生活しています。タモ網などで水底や水生植物をすくいとると、採集することができます。採集したヤゴは採集場所の水や泥、水草などと一緒に飼育用の水槽に入れましょう。

■ヤゴは何を食べるの？

ヤゴは肉食性で、動くものは何でも捕まえる習性を持ち、共食いもします。エサは小さいヤゴにはミズムシやボウフラなど、少し大きくなるとアカムシやイトミミズです。大きく成長してからはミミズやオタマジャクシを食べ、メダカを捕まえることもあります。

■ヤゴがエサを捕まえる方法

ヤゴの下アゴは獲物を捕まえるのに便利な仕組みになっていて、普段は小さく折りたたまれています。しかし、獲物を見つけると素早くこの下アゴを長く伸ばして先端にあるキバで捕まえます。

■ヤゴが羽化するときは

ヤゴが大きくなり、エサを食べないようになったら羽化が近い証拠です。羽化するときの足場になるように水そうに木の枝や岩などを配置します。そうすると、夜間に上陸して、羽化します。成虫になったら、飼育するのはとても難しいので、野外へ放してあげましょう。



ギンヤンマの幼虫



ヤゴの飼育のようす



ヤゴの下アゴを伸ばしたところ



ギンヤンマ成虫

★水辺のビオトープづくり★

■水辺ビオトープって、なに？

ビオトープとはドイツ語で「生き物（ビオ）のすむ空間（トープ）」という意味です。それゆえ、水辺ビオトープは水と関係のある生物がすんでいる場所になります。

■どこにつくったらいいの？

作る場所は水が供給できる場所であることが重要です。休耕田や公園の地面を掘って水をためることもできます。多くの生き物を集めようと思ったら里山に近い所が良いでしょう。

■どんな生き物が見られるか

せせらぎのような流れだとカゲロウやホタルなどがすみつきますが、種類数は少ないです。池のような止水環境であれば、トンボの幼虫、水生のコウチュウなどの多くの種を呼び込むことができます。

■水辺ビオトープの事例

・上徳山町の休耕田（ふれあい池）

－経過－

2005年に休耕田に水をため、ふれあい昆虫館友の会によって維持管理や生物調査を行っています。生物を持ち込まず、「自然に任せて」の考え方ですみついた生物ばかりです。

－見られる生き物－

過去6年の調査の結果、トンボ類やゲンゴロウ類、両生類が40種以上確認されました。クロゲンゴロウやアベサンショウウオも見つかっています。

・宮竹町のせせらぎと小池（やしき谷公園）

－経過－

1993年に水辺ビオトープとして造成しました。その後、水生植物の植栽を行ったり、魚類やカワニナを放流し、生物の定着を促しました。現在は宮竹町が管理しています。

－見られる生き物－

トンボ類が22種、水生のカメムシ類やコウチュウ類が12種確認されました。トンボ類がとて多かったです、定着している種は少ないと思われます。



上徳山のビオトープ活動



宮竹のビオトープ活動